

## 特別支援学校における理学療法士の支援ニーズに関する アンケート調査

長井 真弓<sup>1)</sup> 桂 理江子<sup>1)</sup> 鈴木 誠<sup>1)</sup>

1) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

### 要旨

2013年度より我々は、主に重複障害を有する児童生徒が通う支援学校にて、外部支援専門員として継続的な活動を行ってきた。しかし、重複障害の児童生徒に関わる教員が、理学療法士に対してどのような支援を求めているかは検討されていない。そこで、支援学校教員を対象に理学療法士に対する支援ニーズの把握を目的にアンケート調査を実施したので報告する。アンケート結果から、支援学校の教員は、下肢の身体機能面に関する助言が有用と感じていた。また研修会など情報共有の場の確保、理学療法士の積極的な活用を望んでいた。今後の活動では、児童生徒の教育に活かせるように支援するためにも、理学療法士からの一方的な支援ではなく、相互理解が進む方法を検討する必要があると考えられた。

【キーワード】 特別支援学校、理学療法士、外部支援専門員

### I. はじめに

本邦での心身に障害を有する子どもへの学校教育は、2007年の学校教育法改正に伴い、「特殊教育」から「特別支援教育」へと変更された。「特別支援教育」とは、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する視点に立ち、一人一人の教育ニーズを把握して、持てる能力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導や必要な支援を行うこと<sup>1)</sup>とされている。文部科学省は、特別支援学校学習指導要領<sup>2)</sup>にて、学校に対して自立活動の指導計画作成や実際の指導に当たり、医師をはじめ、理学療法士等の専門家との連携協力を図り、必要に応じて指導・助言を求め、特別支援教育の充実と改善を図ることを推奨している。このような流れから、理学療法士等による教育現場での支援が公に認知され、活動が徐々に広がりを見せている。

我々は2013年度から、主に重複障害を有す

る児童生徒が通う特別支援学校（以下、支援学校）にて外部支援専門員として継続的な活動を行ってきた。外部支援専門員は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・音楽療法士・視能訓練士・臨床心理士などで構成されており、派遣依頼のあった支援学校にて自立活動などを通して、児童生徒の実態把握や生活動作への助言などを行っている。吉田ら<sup>3)</sup>は、肢体不自由を有する児童生徒が通う特別支援学校の教員を対象にした意識調査を行った。その結果、授業や児童生徒の着替えなど多くの学校生活に支障があると教員が感じていること、支援学校での理学療法士の活動の重要性について報告している。しかし、重複障害の児童生徒に関わる教員が、理学療法士に対してどのような支援を求めているかは検討されていない。理学療法士への支援ニーズの把握は、児童生徒に対する教育の充実や改善につながるため非常に重要である。そこで、支援学校教員を対象に理学療法士に対する

支援ニーズの把握を目的にアンケート調査を実施したので報告する。

## II. アンケート調査

### 1. 対象

支援学校の重複障害を有する児童生徒が所属するクラスの教員 15 名のうち、アンケート調査に同意の得られた 12 名である。本研究は、東北文化学園大学研究倫理委員会の承認を得た（文大倫第 19-014 号）。

### 2. アンケート内容と結果

2020年1月に記述回答によるアンケート調査を実施した。アンケートでは、1. これまでの理学療法士のどんな支援が「有意義だった」、「役に立った」と感じたか、2. 今後、理学療法士のどんな支援があると良いか、3. 「特別支援学校での理学療法士の支援」について日々感じていることは何か、の3項目を自由記述回答により得た。得られた意見を集約し KH Coder Ver.3.Beta.04a を用いて、質問ごとに抽出後リストを作成した。リストは、出現回数が多かった上位 10 個を抽出し、10 番目の語句と同数の出現回数の語句までを掲載した（表 1）。質問 1 の回答に沿う抽出語として、「指導」「助言」「アドバイス」に加え、「足」「姿勢」「歩行」といった下肢機能を示す語が挙げられた。質問 2 では、「アドバイス」「児童生徒」に加え「課題」「研修」といった学びの機会を示す語や「定期的」といった頻度を示す語が抽出された。質問 3 では、「思う」「児童生徒」に加え「アドバイス」「支援」や、「家庭」「学校」といった場所を示す語が示された。

## III. 考察

質問 1 より支援学校の教員は理学療法士に対して、歩行や姿勢など下肢の身体機能面での指導や助言が役立ったと感じていた。つまり、多くの教員が児童生徒の身体機能面について悩み

を感じていることが明らかとなった。実際に吉田<sup>3)</sup>らや他の報告<sup>4)</sup>では、歩行を含めた移動や移乗の仕方や注意点に関する相談依頼があったと報告している。さらに東京都教育委員会<sup>5)</sup>によれば、理学療法士からの助言は、「生命や健康維持に必要な機能や長期的視点による運動機能の発達に関する内容を想定している」と報告している。今回のアンケートでは、下肢機能を示す語が多く挙げられたことから教員が理学療法士に対して身体機能面を中心とした情報提供を望んでいたと考えられる。また質問 1 の抽出後リストに「保護者」という語も挙げられた。「保護者」については、教員と保護者の情報共有を示していると考えられる。教員は理学療法士からの助言を参考に指導方針を定め、保護者と情報を共有している。佐藤ら<sup>6)</sup>は外部専門家の活用によって、直接助言を得ることで教師の自信につながった。そして、教員と保護者との信頼関係強化につながったと報告している。本研究では「情報」「共有」という語は抽出されなかったが、アンケートの回答では既述したような、助言を得たことで教師の自信につながり、保護者との情報共有に活かされた。といった内容が記載されていたことから保護者との関係性にも良い影響を与えていると考えられる。

質問 2 より、教員は定期的な支援の依頼と研修会の開催を望んでいると推察される。子どもの正常発達段階や児童生徒が有する疾患の理解は、日々の教育実践においてリスク管理の上でも、非常に重要である。さらに、教員が児童の身体を観察する部分を知ることが、教員自身の身体的負担を軽減させ、なおかつ児童生徒の安全な移乗・移動につながる。支援学校での理学療法士の助言の対象は教員である。吉田ら<sup>3)</sup>は、支援学校に勤める中学校教員は、小学校や高校の教員よりも児童生徒の著しい身体成長を感じ、多くの学校生活場面で支障が生じると報告している。このことから、成長に合わせた身体状況や観察すべきポイントなどを共有する場が必

表 1. アンケート結果における頻出語

質問1		質問2		質問3	
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
指導	6	アドバイス	7	思う	6
助言	6	児童生徒	6	児童生徒	5
生徒	6	見る	4	アドバイス	4
アドバイス	5	課題	3	感じる	4
足	5	子ども	3	指導	4
教える	4	思う	3	理学療法士	4
姿勢	4	身体	3	家庭	3
方法	4	定期的	3	学校	3
ストレッチ	3	部分	3	見る	3
行う	3	ポイント	2	支援	3
高い	3	気づく	2	多い	3
児童生徒	3	研修	2	必要	3
実際	3	今	2	聞く	3
正しい	3	指導	2		
体重	3	生徒	2		
保護者	3	多い	2		
歩行	3	担当	2		
		同様	2		
		特性	2		
		様子	2		

要になる。また佐藤ら<sup>6)</sup>は、担任と外部専門家の仲立ちをするコーディネーター役の教員は、外部専門家を講師とした研修会で専門的知識を学べるのが利点だと感じていたと報告している。以上より、学校生活における主体的な取り組みを支援するためにも、児童生徒の実態把握に関する情報共有の場や研修の場などが必要となっている現状が明らかとなった。

質問3より理学療法士は学校や家庭での支援やアドバイスが求められていると考えられる。つまり、教員は日々生じる疑問に対して気兼ねなく理学療法士へ相談できる環境を望んでいるのではないだろうか。先行研究<sup>6,7)</sup>では、外部専門員の活用回数や、時間の制限が課題と報告されており、日常的に理学療法士に質問がしにくい環境であると推察される。言い換えると、教員の多くは理学療法士の積極的な活用を望んでおり、支援学校での理学療法士の活動の価値が高まっていることが伺える。

今回のアンケートより、支援学校の教員は、下肢の身体機能面に関する助言や研修会など情報共有の場の確保、理学療法士の積極的な活用を望んでいることが分かった。今後、教員が理学療法士からの支援を児童生徒の教育に活かせるように、我々は情報共有を密にすることを意識しながら活動したい。

利益相反 本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はありません。

## Ⅷ. 文献

- 1) 文部科学省：特別支援教育について。  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/main.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm)（閲覧日：2021年10月15日）
- 2) 文部科学省：特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編。  
[https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afield](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afield)

file/2019/02/04/1399950\_5.pdf（閲覧日：2021年10月15日）

- 3) 吉田忠義，阿部美香，中山伸枝，他：特別支援学校における理学療法士の着眼点の検討～教員からの意識調査に基づく一考察～．東北文化学園大学リハビリテーション学科紀要 2015；10/11(1)：19-24.
- 4) 福島真人，長門五城，西沢勝則，他：特別支援学校への外部専門家としての活動．理学療法研究 2010；27：31-35.
- 5) 東京都教育委員会：都立肢体不自由特別支援学校での自立活動における外部専門家を導入した指導内容・方法の研究・開発事業報告書．2008
- 6) 佐藤孝史，藤井慶博，武田篤：肢体不自由特別支援学校における外部専門家との連携のあり方に関する検討—全国肢体不自由特別支援学校における外部専門家活用に関するアンケート調査—．秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門 2015；70：85-96.
- 7) 石倉健二：肢体不自由特別支援学校におけるリハ職の活用と展望—理学療法士を中心として—．発達障害研究 2015；37(2)：113-119.

# Questionnaire survey on the support of physical-therapists in special needs school

Mayumi Nagai<sup>1)</sup>, Rieko Katsura<sup>1)</sup>, Makoto Suzuki<sup>1)</sup>

1) Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University

## Abstract

Since 2013, we have continuously worked as outsourced support specialists at special needs school. However, the kind of support that teachers seek from physical therapists regarding students with multiple disabilities has not been examined. A questionnaire survey was conducted with the aim of clarifying the needs of teachers at special needs school from physical therapists' support. As a result, teachers of special needs school regarded activities of physical therapists as outsourced support specialists in a positive manner, in particular, valued advice offered in terms of student's physical function. They also suggested that training sessions be provided for information sharing and active utilization of physical therapists. For future activities, training is considered necessary to increase mutual understanding, rather than one-sided support from physical therapists, in order to provide support that can be utilized in student education.

**[Keywords]** special needs school, physical therapist, outsourced support specialist, special needs education